

『令和8年度 全国学力・学習状況調査 結果・分析』

江戸川区立一之江第二小学校

調査日 令和8年4月23日（木）

対象学年 第6学年実施人数：122名

【総合結果】

《結果》平均正答率	国語	算数
本校	9.2 / 13	11.3 / 16
東京都	8.4 / 13	10.1 / 16
全国	7.9 / 13	9.0 / 16

【教科ごとの分析】

国語

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	東京都(公立)	全国(公立)
全体			13	71	65	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	78.5	70.4	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.9	56.7	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	74.9	70.0	65.8
		B 書くこと	2	57.4	50.4	45.7
		C 読むこと	2	73.4	68.8	65.9

結果と課題

- 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」のすべての項目において全国、東京都いずれの平均も上回った。
- 「書くこと」については、全国、東京都いずれの平均を上回っているが、他の項目と比べて点数が低い。
→集めた情報から自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが苦手な児童がいる

改善策

「知識及び技能」

- ・授業の中で、文字を書く時間を増やす。教師がノートとタブレットの使い分けを意識することを通して、ノートに文字を書くときには、学習した漢字を日常的に使用するように指導する。国語という教科だけに限らず、全教科に通じる項目として意識をもち、指導にあたる。

「思考力、判断力、表現力等」

- ・「読むこと」のなかでも、「目的に応じて文章と図表などを結び付ける」などして、必要な情報を読み取れることを重点的に指導する。具体的には、単元の中で出てきた図表を見る視点を全体で共有したり、結びつく文章と関係する図表の情報を線で結ぶなどの見える化を図ったりして、理解を深めていく。
- ・「書く力」を身に付けるために、どの教科においても自分の考えや思いを言語化する活動をこれまで以上に取り入れていく。
- ・朝読書の他、読書科の時間を有効に使い、じっくりと活字に親しむ時間を確保する。
- ・定期的に「よむ YOMU ワークシート」を実施し、様々な問題に触れることを通して、問題を解く視点を養わせる。

算数

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	東京都(公立)	全国(公立)
全体		16	71	63	56.4
学習指導要領の 領域	A 数と計算	8	75.9	68.0	61.1
	B 図形	4	73.2	63.4	55.3
	C 測定	1	90.2	82.9	78.1
	C 変化と関係	3	57.7	49.9	41.1
	D データの活用	4	59.4	53.9	48.6

結果と課題

- 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」のすべての項目において全国、東京都いずれの平均も上回った。
- 「変化と関係」及び「データの活用」について。全国及び東京都の平均正答率を上回ったが、他の項目と比較して正答率が低かった。
 - 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味理解が不十分な児童がいる
 - 二次元の表から、条件に合う数を読み取るのが苦手な児童がいる

改善策

- ・単位量当たりの大きさに関する学習の振り返りを再度行い、練習問題を通して繰り返し指導していく。
- ・問題で問われている内容をきちんと読み取り、聞かれていることに正対して解答できるようどの教科においても意識的に指導していく。
- ・毎週水曜日のパワーアップモーニングと毎学期1週間取り組んでいる江戸川っ子 study week において、東京ベーシックドリルの診断テストの結果を基に、ドリルパークを活用して既習事項の定着に取り組む。
- ・少人数指導や朝学習、放課後補習教室など、基礎基本を定着させる指導を継続するとともに、活用する能力を身に付けさせるために学習活動や教材の工夫を行っていく。
- ・中学の数学にスムーズに入れるように、小学校で学んだ基本的な四則計算の反復練習を徹底する。その際、整数だけでなく小数や分数の四則計算などについても、確実な定着を図る。